

伊東

長子藤原弘祐いふまゝ右馬允祐尚う四男

あり相換あひかよ生なるり新十席しんじふと

りり八や八は元和年孫げんわねんそん北條氏改きたじょうしははははううまま了り安房あはら

氏邦うじくにははてて出で仕しととありあり後のちはは騎馬きまの

士し十じゆ人にん恒とこ卒す二十にじゆ人にんををららひひけけららししるるあり

天正十年六月上野國神楽川の合戦てんしやうじゆねんろくがつかみづのくわいせん

首級くびかを得え時とき翌あした年ねん十月沼田ぬまたの戦いくさひひりりハ

先登くさ矢麻をとうけしりるかく
て小田原没落の後日一十九年正月
りし出されし

東照宮の拜謁寛永やうそはいつま

はり米地をふまふ家文禄元年名護

を陣よはりしをまふ寛永貞享書

弘祐とまふ又六市本は仰せし肥後心

まといし清康船にけりしせ流し書

とせしせ流し寛永慶長四年

右徳院殿にけしせしは同五年

大番の組より此とま田昌幸の勢

は上田城にせし流しは徳寺一岡

十九年大坂陣の時

右徳院殿の御命より弘祐神谷

ふし市清正心角又信正勝し旗下の

士曹持の押しる按じらるる貞享書元和元年

上りの三勝の名を附

夏州陣のよき弘祐及び小野治重
忠明神谷清正石川市兵衛利賢小角
正勝青木あはせ高頼等六人旗本
合の巧狭槍を以て多る奥谷殿の時弘祐
家人根岸忠重のよき弘祐の首級を
とり
寛永十
四年九月八日 弘祐及び
物法せしは榊原遠江守康勝の陣場
として敗走せしむる小野忠明と

弘祐あはせ弘祐の弟法子
及びしは榊原遠江守康勝の陣場
條法子あはせ弘祐の弟法子
関て出るまはしは榊原遠江守康勝の陣場
後わかれしは榊原遠江守康勝の陣場

寛永十
四年九月

大猷院殿よき弘祐及び小野治重
組よける寛永四年九月廿日年六十四
りて死す法名は文忠といふ其子

九市在^{たつしほ}河^が祐久^{すけひさ}以上野^のの生^{なま}る慶長十

年八月

台德院殿^をおねと^{寛永}時^の十六^の集^り

家^清聖^の年^{より}大^の番^を列^し同十九^年大^に坂

印^の陣^の付^に高^木主^水正^の組^の属^して

江戸^の城^の前^をと^り初^めむ聖^の年^の城^に攻^め

と主^水正^の属^して戦^の場^に供^け奉^り初^めむ

寛永^の時^の遺^の跡^をし^りて^{寛永}十^年三^百俵^を

たま^に寛永^十年^二月^二日^二百^石を^加へられ

康^米を^改めて^上野^國録^野郡^常陸^國

河^内郡^を五^百石^を加^へり^て正^保三^年

八^月十^二日^年あ^ら七^十と^して^死す^と法^名を

英^祐よ^のみ^甚子^彌四^市祐^信い^とう^のめ

平^之祐^よの^み実^に朝^會仁^九市^の重^宣の

二^男を^り祐^久よ^養ひ^まし^て正^保三^年送^る

跡^をし^り
家^清○今^の小^菅清
正^東長^九市^の祐^信の^祖か